

平成23年度 教育行政評価 No1 (自己評価)

主要事業名	学校図書館の整備	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	(3) 読書活動の充実

2 事業概要

目的	児童生徒の自主的な学習活動を支援し、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力を高めるとともに、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。			
対象及び規模	対象	小学生・中学生・教員	規模	5,922人

3 実績

	平成23年度は中野西小学校と鹿島小学校に専任司書を配置し、学校図書館を開館しました。8校8人の司書を専任配置し、司書の定例会議の開催や中央図書館司書職員との合同研修を行い、情報の共有化や技術の向上に努めました。また、学校で必要な図書を購入できるよう図書購入費を増額し、不足資料については、小学校の年間計画を作成し、中央図書館の蔵書が検索できるシステムを使って中央図書館の資料の相互貸借を行いました。			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	学校図書館未整備校との比較で読書環境に差が出ている。読書センターとしての機能は十分果たしている状況だが、学習センターとしての機能と活用についても研究していく必要がある。			
改善策	計画的に学校図書館を整備するとともに、司書の配置について研究・検討していく。中央図書館と連携を図りながら、年間利用計画を小中学校ごとに作成する。司書対象研修会を開催し、図書館の活用を図る。			

平成23年度 教育行政評価 No2 (自己評価)

主要事業名	学力向上の推進	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	(1) 基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市の地域性を活かして自分の生き方を創造し、それによって地域の人々と豊かな生活を築いて行こうとする「鹿嶋っ子」を育成するため、主体的に学ぶ意欲を持ち、達成感や充実感を味わいながら自らの課題を発見、解決できる力を育てる教育環境を整備します。			
対象及び規模	対象	市立小学校・中学校	規模	5,518人

3 実績

	個に応じた指導の充実を図り、一人ひとりの能力を伸ばすためには、より高い専門性をもった人材の配置が必要不可欠であると考えます。そのため、採用の際には選考試験を行い、採用後も特別な支援を要する児童に対する支援等の研修を行う等、採用した職員の資質向上も行いました。AT・TTについては、学校の実態や必要性に応じて配置しています。また、4月に茨城県学力診断テストを実施し、その結果を十分に分析し、授業改善と個別指導に活かしました。			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	TT及びATの導入による成果の大きさや必要性は今後、減少されることは予想されません。そのような状況で、予算削減の枠組みに組み入れられ人員を削減されると子どもたちの学力向上の面でもこれまでのような成果が十分に上がらないことも考えられます。その対策として、休憩時間や授業時間中の情報交換や情報共有を密にとることで課題解決を図っています。			
改善策	より効果的なAT・TTの個別支援や教職間の情報共有のポイント等についての研修や師範塾の研修講座開設を地道に継続して資質向上を図ることが重要と考えます。不足する部分については、指導力向上やTT及びATの指導のあり方や役割、生徒理解等に関する資料を作成・配布して、各学校で研修を行ってもらうことで資質の向上を図っていきます。			

平成23年度 教育行政評価 No2-1 (自己評価)

主要事業名	食育推進事業	担当	部名	教育委員会
			課名	学校給食センター

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	(2) 穏やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目的	市立幼稚園・小・中学校の園児・児童生徒及び教職員に安全な学校給食の提供をします。			
対象及び規模	対象	幼稚園・小中学校児童生徒及び教職員	規模	6,500人

3 実績

年間給食供給予定回数199日のうち、東日本大震災の影響で、4月の2日間は供給ができなかったが、施設復旧後は予定どおり給食を提供することができました。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	諸物価の高騰により食材調達で不安はありましたが、安定的に安心・安全な給食を今後も供給してまいります。また、福島第1原子力発電所事故(3月11日)に伴う放射能問題により、食の安全が課題となっています。
改善策	食の安全につながる対策として、給食センター内の設備点検(定期点検・日常点検)を遵守するとともに、給食の安全確保に努めています。なお、放射能問題については、給食に使用する食材の納入業者を通して安全性の確認をしております。また、平成24年度より消費者庁が所管する放射線測定器を借り受け、食材の測定をして安全性の確認を推進してまいります。

平成23年度 教育行政評価 No3 (自己評価)

主要事業名	長期欠席児童生徒解消	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	(2) 穏やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目的	子どもたち一人ひとりの学ぶ権利を尊重し、学校で学ぶ楽しさを実感し、学び合う仲間を得られるようにする。			
対象及び規模	対象	市立小中学校児童生徒及び保護者、教職員	規模	約8,000名

3 実績

各中学校区ともに、地域の特色を生かした小中連携に取り組み、児童生徒の交流にとどまらず、教職員の交流も図られるようになってきている。また、スタートカリキュラム作成委員会を開催したことにより、幼小職員の親交が図られ、それぞれの教育の特性を理解することができた。教育相談指導員の相談件数は増加傾向にあり、児童生徒、保護者だけでなく、学校現場からも高評である。また、保護者対象の子育て懇談会についても、回を重ねるごとに参加者が増えている。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	各校の積極的な取り組みの成果として、増加率は抑えられているが、不登校生徒が大幅に減少するにはいたっていない。今後、小中連携をさらに強化し、小中学校間での情報交換を密にしていく必要がある。スタートカリキュラム作成、配布までは行うことができたが、本カリキュラムが有効であったかはまだ検証されておらず、幼保小においての実践を今後検証していく必要がある。
改善策	不登校等対策連絡協議会を開催し、市内小中学校の不登校解消支援担当者による協議及び情報交換を行い、小中の連携をさらに強化する。各校の実態把握を行い、よりきめ細やかなカウンセリングを実施していく。また、県配置のスクールカウンセラーとも情報交換を行っていく。

平成23年度 教育行政評価 No4 (自己評価)

主要事業名	学校支援体制の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	(4) 学校支援体制の充実

2 事業概要

目的	新鹿嶋市総合計画の目標のひとつである「世界に羽ばたく人づくりを進めるまち」をふまえ、鹿嶋市教育基本計画の重点施策でもある子どもたち自身が自分の理想的な人格的価値を選択したり創造したりする力をもった「鹿嶋っ子」の育成に今後も重点的に取り組む必要があります。そのため、教科・領域はもとより、総合的な学習の時間を有効に活用し、特色ある学校教育活動を主体的に取り組み、小中学校教育の充実を推進します。			
対象及び規模	対象	小学生及び中学生	規模	5,518人

3 実績

市の財政状況から、予算が年々少なくなってきた状況ではあるが、限られた予算の中で市内全小中学校において、年度始めに計画した内容に基づき特色ある学校教育活動に取り組んでいる。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	学校によって、消耗品費に支出が多いなど、予算支出に偏りが見られるので、教育研究のための研修会等への支出を増やしていくよう指導する。
改善策	指導主事を中心に、学校へ趣旨を理解してもらうよう働きかけ、適切に予算を執行してもらうように指導していく。

平成23年度 教育行政評価 No5 (自己評価)

主要事業名	鹿嶋の歴史・文化・伝統の普及と発信	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	(1) 地域資源や地域人材の活用

2 事業概要

目的	郷土教育の振興を図るために、地域にある資源の活用を積極的に進めていく。その戦略としてはまなす公園内にある郷土資料館の活性化や門前町の空き店舗を活用して鹿嶋市内の歴史や文化を紹介するミニ博物館の管理運営など、鹿嶋市の情報発信基地として郷土理解に向けた様々な企画やイベントも実施していく。			
対象及び規模	対象	一般市民・観光客	規模	66,760人

3 実績

行政が予算を確保。各地区のカルタ大会は、まちづくりセンターや文化財愛護協会と協力して事業を実施、ミニ博物館は大町商店会と、郷土資料館はみどり推進課と施設によって所管が異なる。かるた大会やウォーキングなど長く実施してきたが、温度差があり一部の人や機関に負担が大きいのも現状である。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	ミニ博物館や郷土資料館は観光地や歴史のまちとしての鹿嶋をアピール・情報発信していく施設として有効であるが、管理運営に様々な課題があり、運営母体は充実した組織が望まれる。地域の資源活用についても教育委員会だけで進めることは難しく、生涯学習課や商工観光課等と連携して周知活動も含めて進めていく事が必要。
改善策	博物館の代替えの施設でもあり、鹿嶋の歴史や文化の情報発信をしていく施設として管理運営団体を検討していく。組織や運営委員会の充実。施設の改修など展示資料の充実も必要である。

平成23年度 教育行政評価 No6 (自己評価)

主要事業名	英語活動の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育
体系項目	(2) 国際理解教育の推進
個別施策	(1) 小中学校での英語教育の充実

2 事業概要

目的	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自らすすんで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点にしています。 中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努めます。			
対象及び規模	対象	小学生及び中学生	規模	5,387人

3 実績

	教育研修会や学校訪問研修会、ビデオによる指導者研修等、教員の研修機会を多く実施したことにより、教員と英語指導助手による授業の質が高まり、教育効果が上がっています。また、指導主事による学校訪問を行い、校長・教頭・教務主任・英語主任との懇談から得た各校の課題の改善に努め、校内での英語教育研修体制の確立を支援しています。			
--	--	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	小学校英語活動で養ったコミュニケーション能力の素地を効果的に生かすために、小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携を深めることが課題です。			
改善策	小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携については、相互の指導内容・指導方法について理解を深めることが重要であるため、中学校区内の小・中学校間で相互に英語の授業参観を実施することとし、昨年度より参観回数を増やし相互の理解と情報収集の機会の充実を図ります。また、中学校英語推進協議会を開催し、小学校英語活動からのよりよい連携について具体策を検討していきます。			

平成23年度 教育行政評価 No7 (自己評価)

主要事業名	スポーツ指導者養成講座・健康スポーツ教室の開催	担当	部名	市民協働部
			課名	スポーツ推進室

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(1) スポーツの振興
個別施策	(2) 地域スポーツの展開と情報の発信

2 事業概要

目的	スポーツ振興の推進主体となる体育協会やかしまスポーツクラブ等、各種スポーツ団体との連携を図り、各団体が主体的に活動に取り組むことができるよう支援をします。さらに、各地域より選出のスポーツ推進委員を中心に、地域における多様なスポーツ事業を充実させたり、新たに軽スポーツやウォーキング大会等のイベントを開催し、スポーツ機会の拡大を推進し、成人の週1回以上のスポーツ実施率50%以上を目指します。			
対象及び規模	対象	市民全般	規模	スポーツカレッジ32人、スポーツ教室1,518人

3 実績

	東日本大震災の影響もあり、事業参加者及びスポーツ施設の利用者が前年の最高値に比べやや減少しました。例年通り健康づくりスポーツ教室は、体育協会やかしまスポーツクラブで実施するほか、スポーツ推進委員による各まちづくりセンターで事業を開催し、26教室で参加者は1,318人です。資格認定者は、H20年度11人、H21年度13人、H22年度8人、H23年度19人で認定者は178人となり、地域で活動しております。			
--	--	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	スポーツ大会や教室等は増加し、成人の週1回以上のスポーツ実施率は、アンケートで平成22年度35.9%と伸びてきていますが、目標の50%以上を達成する手法について気軽にできる様々なスポーツ事業の検討をしています。			
改善策	市民が行う各種スポーツ実施状況の把握方法を検討し、まずは市民に浸透しているウォーキングやステップ運動を拡大し、事業展開を図ります。また、体育協会等とタイアップしてスポーツ推進委員指導のもと、軽スポーツを取り入れたニュースポーツや障がい者スポーツ、親子対象など、その他事業を展開し、地域におけるスポーツ実施機会の拡大を図り、成人の週1回以上のスポーツ実施率50%以上を目指します。			

平成23年度 教育行政評価 No8 (自己評価)

主要事業名	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進	担当	部名	市民協働部	課名	まちづくり市民センター
-------	------------------------	----	----	-------	----	-------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	4	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2)	芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	(1)	地域に根ざした文化活動の創造

2 事業概要

目的	市民の芸術文化活動の振興を図るため、市美術展覧会・芸術祭・市民ギャラリー企画展を開催し鑑賞や成果発表の機会とするとともに、芸術文化団体等の育成や支援、芸術文化活動の指導者の発掘等を図る。また、市民交流の推進を図るため、各地区まちづくり委員会に公民館活動事業を委託し、市民主体の活動を推進するとともに各地区まちづくり委員会とまちづくりセンターで組織するまちづくり連絡協議会活動を通じて情報交換や研修会等を開催し、活動実践者の拡充を図る。				
対象及び規模	対象	市民	規模	66,760人	

3 実績

各公民館における、自主サークルの文化活動と発表の場を設けるとともに、市全体としては、市美術展覧会や芸術祭・文化フェスティバル等を通じて文化芸術活動の普及を図っている。また、まちづくり事業については、毎年地区の課題を取り入れて、各種事業を計画し展開している。昨年度は東日本大震災による防災意識の高まりを受け、まちづくり塾やまちづくり研修会で地域防災について研修を深めるとともに、防災マニュアルの作成など地区の実情に応じた取り組みが図られた。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	美術展覧会は運営関係者や出品者の固定化が見られるため、事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや、後継者の育成等が課題である。また、公民館活動については、単一年度の事業だけでなく、中長期的な計画に基づく事業の実施や、地区まちづくり活動の中核を担う活動実践者の育成を図る。
改善策	美術展覧会等の事業を新聞社等のメディアも活用して広く知らしめ幅広い出品を募るとともに、文化協会や活動団体等にも後継者の育成等を呼びかけ、活動人口を増やしていく。また、公民館活動については、全体的な研修会や講座を通して、共通の地域課題についての研修や地域活動の支援を行うとともに、活動実践者の拡充を図る。

平成23年度 教育行政評価 No9 (自己評価)

主要事業名	神野向遺跡保存事業	担当	部名	教育委員会	課名	教育総務課
-------	-----------	----	----	-------	----	-------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	4	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2)	芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	(2)	文化財の保護を活用

2 事業概要

目的	神野向遺跡は、古代鹿島郡家跡（鹿島郡役所跡）として、鹿島神宮や神宮境内（沼尾神社・坂戸神社）等とともに昭和61年に国の史跡に指定された鹿嶋市の貴重な文化財です。 こうした鹿嶋市の歴史を広く市内外にアピールするとともに、貴重な文化財を永く後世に残していくために公有化を図り、史跡公園として整備を進めます。				
対象及び規模	対象	国指定史跡「神野向遺跡」	規模	73,607.01㎡（国指定面積）	

3 実績

事業は、国指定史跡（神野向遺跡）の公有化が主たる事業で、平成23年度末で公有化が指定面積の約90%まで進んでいる。公有化後は史跡公園として整備していく計画で、平成21年度から専門家による史跡整備検討委員会を設置、平成22年度に「史跡整備基本構想」を策定しました。今後は「基本計画の作成」、「実施設計の作成」と進めて、出来るだけ早い段階で市民の方々へ歴史体験ができる史跡公園として活用できるよう、取り組んでいきたい。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	史跡の保存は地下の遺構を保存することが主たる目的であり、整備や活用については地下の遺構に影響のない手法について検討が必要で、そのため専門家による検討委員会を設置して、基本構想を策定しました。なお、文化財の保存活用には、歴史や文化、文化財に関する専門知識を持つ職員の配置が必要で、今後神野向遺跡の史跡整備事業を効果的・効率的に実施するためには専門知識を持つ若手専門職員の採用育成が急務となっています。
改善策	公開の手法は、郡衙（古代の郡役所跡）を史跡公園として、また歴史学習体験の場として地下遺構の現状保存を原則にして、史跡の様子が分かるような案内板や説明板の工夫をしていきます。文化財担当職員の育成では、24年度職員（文化財担当）を1名配置しました。

平成23年度 教育行政評価 No10 (自己評価)

主要事業名	リーダー研修会の実施	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(3) 生涯学習の充実と市民交流の推進
個別施策	(2) 生涯学習の機会の拡充と地域人材の活用

2 事業概要

目的	地域での活動を自発的、積極的に行えるボランティアリーダーを育成することを目的に、高校生を対象とした「ヤングボランティア養成講座」を実施し、ボランティアの基本的な学習の場と機会を提供する。			
対象及び規模	対象	高校生・市民	規模	66,760人

3 実績

	キャンプ場でのゲームやキャンプファイヤーの研修を行い、講師と意見交換をしながらコミュニケーションについて話し合い、高校生リーダーの養成を行いました。実施後は、市民センターの祭りへ参加したり、成人式の実行委員として事業に協力しています。			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	ボランティア養成講座に参加しても、その経験を活かす場所が見つからない現状があります。また、ボランティアを必要としている場所にボランティアが集まらない、若しくは、いつも同じ人たちの参加で、新しく参加をした人は、ほんのわずかであることがほとんどです。需要と供給のそれぞれの情報提供や、地域活動への参加を促す手法を考える必要があります。			
改善策	フロンティア・アドベンチャーのサブリーダーや、成人式の実行委員としての活動など高校生が参加できる地域活動の情報を集め、参加意欲がある時期に積極的にボランティア活動に参加できる状況を設定していきます。			

平成23年度 教育行政評価 No11 (自己評価)

主要事業名	学校施設の耐震化と整備	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(1) 教育施設の整備
個別施策	(1) 校舎及び園舎の改修・改善・耐震化の推進

2 事業概要

目的	児童・生徒の安全性の確保に加え、学校が地域住民の災害時の避難場所となることから、平成23年度末を目標に耐震化率100%を目指します。 小学校4校（三笠小学校、大同東小学校、大同西小学校、中野西小学校） 中学校1校（高松中学校）			
対象及び規模	対象	小学生及び中学生	規模	5,523人

3 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度以前工事完了校 小学校7校（豊郷小・豊津小・波野小・鹿島小・中野東小・高松小、平井小）、中学校2校（鹿島中・鹿野中） ・平成23年度工事完了校 小学校4校（三笠小・大同東小・大同西小・中野西小）、中学校1校（高松中） ・新基準で建てられ耐震化工事の必要性がない建物 小学校1校（鉢形小）、中学校2校（平井中、大野中） ・計画的な耐震補強工事を実施してきたことにより、東北地方太平洋沖地震（H23.3.11発生）に伴う大きな被害を受けずに済みました。また、本年度をもって耐震補強工事は、市内全ての小・中学校施設において工事完了となりました。 			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	今後は、各学校施設とも経年劣化による給排水配管の腐食や外壁の塗装・クラック補修工事等の計画的な改修工事が必要です。			
改善策	大規模改修工事計画を作成し、計画的に経年劣化による給排水配管の腐食や外壁の塗装・クラック補修・改修工事を実施していく。			

平成23年度 教育行政評価 No12 (自己評価)

主要事業名	社会教育施設の整備	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(1) 教育施設の整備
個別施策	(4) 社会教育施設の整備充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市が掲げる「まちの将来像」を実現するためには、「協働によるまちづくり」の推進が必要不可欠となります。その中で、社会教育施設（まちづくりセンター、鹿嶋勤労文化会館、スポーツ施設）は、「協働によるまちづくり」を実践する市民活動の拠点施設であり、市民が安心・安全に施設を利用できるよう計画に従い整備及び修繕、改修を実施します。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,760人

3 実績

<p>新規事業であった大野ふれあいセンターは工期延長や事故等もなく完成した。その他の社会教育施設については、修繕する箇所が多く存在しており、各施設管理者から要望等も多数出ていることから、修繕を行う優先順位を決定し、効率よく修繕及び改修工事を実施していくことが必要である。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	各社会教育施設を巡回し、管理者からの意見要望を把握し調整しながら修繕を行う必要がある。修繕箇所も多数あることから、予算確保が必要となる。
改善策	修繕及び改修工事の予算の見直しが必要である。

平成23年度 教育行政評価 No13 (自己評価)

主要事業名	子どもの居場所づくり事業及び青少年相談員活動の実施	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(1) 安心・安全な子育て環境の整備

2 事業概要

目的	文部科学省と厚生労働省との連携による放課後子どもプランが平成19年度から開始され、生涯学習課は放課後子ども教室、こども福祉課は放課後児童クラブとして、放課後における子どもたちの安全安心な居場所をつくり、健康で心豊かな「鹿嶋っ子」を育成します。また、青少年相談員の専門的な研修会への参加を積極的に促し、資質向上を図るとともに、青少年のための相談活動の充実や地域巡回活動の強化に努め、青少年の健全育成を進めます。 ※青少年相談員とは、教育委員会から委嘱される非常勤特別職です(任期は2年間)。			
対象及び規模	対象	市民及び小学生	規模	66,760人(うち小学生3,857人)

3 実績

<p>放課後子ども教室は、児童の安全・安心な居場所づくり、勉強やスポーツ・文化活動、地域の人たちとの交流事業等、さまざまな体験活動を提供するために開設しています。放課後子ども教室を開設している小学校の対象学年の全児童数のうち参加児童数の割合は平成22年度は81%、平成23年度は77%の児童が参加しています。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	平成23年7月20日に豊郷、豊津、大同西、中野西小学校の1、2年生保護者宛に実施したアンケート調査の回収率は80%。そのうち、放課後子ども教室の「必要性を感じている」という回答は90%、「利用を希望する」という回答は69%。また、児童クラブと放課後子ども教室が併設された場合に「子ども教室の利用を希望する」という回答が60%でした。この結果から、今後、子ども教室未開設の学校でも、学校の実態(空き教室の有無や連携方法等)を把握した上で、放課後子ども教室の開設を検討する必要があります。
改善策	放課後子ども教室の開設について、保護者へのアンケート調査や社会教育委員・鹿嶋市PTA連絡協議会などの代表者で構成されている放課後子どもプラン運営委員会で、鹿嶋市の実態に合わせた運営について検討します。

平成23年度 教育行政評価 No14 (自己評価)

主要事業名	子育て講演会及び心とからだの講演会の開催	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(1) 家庭の教育力の充実

2 事業概要

目的	各小・中学校に新たに就学する児童生徒の保護者を対象とし、子育てに関する知識を高め、悩みや疑問を話し合う機会として「小・中学校入学前子育て講座」を実施します。 また、中学生及び保護者を対象とした健全な性に関する知識を学習する「心とからだの講座」を実施し、中学生が自分自身を大切にするための心の育成と保護者の再認識を図るなど、未来を担う、たくましく心豊かな「鹿嶋っ子」を育む子育てを支援します。			
対象及び規模	対象	市民（新入児童及び新中学1年生の保護者）及び中学生	規模	2,930人

3 実績

	小・中学校子育て講演会は、新年度入学する児童・生徒の検診や学校説明会に合わせ、その保護者を対象に家庭教育の重要性を考える機会として実施しています。なお、講座終了後は、保護者（小学校561人、中学校616人）に対しアンケートを実施（回収率：小学校88%、中学校64%）し、講演会参加の感想や講演のテーマ、市に対する要望などについて把握し次回の参考としています。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	講演会后、保護者へのアンケートを行った結果、講演会について「参考になった・一部参考になった」という回答は小学校、中学校ともに92%を占め、「今後どのような子育て講演会を聞きたいか」という問いに対しては「心の育て方」（小学校で56%、中学校で44%）、「親の役割」（小学校15%、中学校29%）という回答が多かった。この結果から、今後も「心の育て方」や「親の役割」といった内容を中心とし、子育て講演会を継続して実施していく必要がある。
改善策	アンケートにより保護者のニーズの把握を行うとともに、講師や学校との事前協議を行い、保護者のニーズに沿った講演内容や実施方法の検討を行う。

平成23年度 教育行政評価 No15 (自己評価)

主要事業名	教職員の資質の向上	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(3) 教職員の資質の向上

2 事業概要

目的	教職員の専門職としての技能向上、一定の教育活動を保障するための支援及び効率的で正確な事務処理を行うための学校管理体制の構築を支援します。			
対象及び規模	対象	教職員・保護者	規模	教職員436人・幼小中学生5,912人の保護者

3 実績

	地域の教育力向上のため、各講座の受講者が活動を活発化できるよう任意の団体の設立支援（読み聞かせの会）とともに、市民対象の講座については一定の目的が達成できたと考え、教職員への研修に特化した。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	東日本大震災の影響により歳入減が見込まれることから、報償費（講師謝礼分）の確保が課題である。
改善策	教育を取り巻く環境を把握し、必要性及び有効性が見込まれる講座を設定する。

平成23年度 教育行政評価 No16 (自己評価)

主要事業名	高塚奨学基金制度の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(4) 教育機会の保障

2 事業概要

目的	平成7年、高塚正義氏からの3億円の寄附を原資に、市独自の高塚奨学基金を設けました。この奨学基金をもとに、優良でありながら、経済的な理由により修学が困難な生徒・学生に無利子で学資(奨学金)を貸与することにより、修学を資金面で支援し、有為な人材の育成を図ります。			
対象及び規模	対象	市内に1年以上住民登録を有する者の子弟	規模	30人

3 実績

<p>平成23年度は募集定員30名中21名、申込割合70%と、前年度の60%を越えましたが、いまだに低い水準のままです。この状況を少しでも改善しようと、23年度から次年度の募集を行い内定という形で奨学生を早期に決定できるよう規則の改正を行いました。その結果、募集人数は25名と更に増加しました。また、募集枠に余りがあるので、新年度に追加募集として奨学生を募ることに決まりました。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	募集人数は増加したが、規則が変わったばかりなので、募集時期が早まったことを知らない学生・保護者がいました。また、返還滞納額が昨年度よりも増加しているので、滞納額の完納も課題となりました。
改善策	規則改正による周知不足については、案内文等を各学校に配布しているが、配付する対象・配付枚数などの検討が必要なので協議が必要です。返還滞納額については、定期的な督促状の送付、臨戸訪問の実施が完納への改善策になります。